



埼玉支部報 第10号

目次

埼玉支部における安全登山対策について	1	陸地測量部主催講演会／埼玉支部行事案内	10
三支部合同登山に参加	3	埼玉支部創立5周年記念海外山行について	11
回峰行の山 一都幾山・金岳・堂平山ー	4	平成26年度全国支部懇談会の骨子決まる	11
第8回安全登山講演会（安全登山委員会）	9	委員会状況・同好会状況	12
50山ラリー実施状況	10	会員／会友異動状況	12

埼玉支部における安全登山対策について

2013年7月の二子山登山において転落事故が発生したことにより支部山行を中止しておりましたが、今月より支部の山行を再開いたしました。

また、事故以降、安全登山委員会や山行・集会委員会、および支部委員会において重ねて協議をおこない、安全登山の励行にむけ下記のとおり「埼玉支部における安全登山対策」をまとめ、今後の支部活動の指針としていきますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

このことは、会員一人ひとりが安全な登山を行う意識と行動を認識し、支部をあげてその徹底に努めていく支部風土の醸成に向けた取り組みであります。小さなことの積み重ねが、私たちの命を守ることにつながります。

また、十分な備えは万が一の場合にも適切な救助活動へとつながることを、今回の事故をとおして学びました。日頃のトレーニング、健康状態の把握、山岳保険への加入、家族への報告、山行時の携行品の確認や保守点検、集団での登山における行動規範など、当たり前のことですが、小さな積み重ねの上に私たちの命は守られ、楽しく有意義な登山活動が保たれているのだと思います。

あらためて、皆様のご理解ご協力をお願いする次第です。なお、7月の事故では会員の方が大腿骨を折る怪我で入院しておりましたが、現在は復帰されております。

1. 登山計画書、家族の情報等

- ・支部山行への参加者は、事前に山行集会委員会またはリーダーに参加申込みを行う。
山行集会委員会またはリーダーは登山計画書を作成し、参加者（家族にも計画書のコピーなどを渡してもらう）、地元警察（登山者カードポスト、携帯電話による登山届の利用も可）などに送付する。
- ・参加者の氏名、住所、性別、生年月日（年齢）、保険証、山岳保険、緊急連絡先、持病等を記載した一覧を作成し、リーダーなどが持参する。
（埼玉支部会員一覧表又は個人別緊急連絡カードを検討中）

2. チーフリーダー（CL）、サブリーダー（SL）の役割

- ・CL、SLは山行集会委員会で事前に決定し、登山計画書に記載する。
山行当日は、参加者全員の自己紹介、CLまたはSLが登山コースを紹介、準備体操などを行う。

- ・事故時の対応はCLの指示で、参加者は決められた役割を分担する。

3. 緊急連絡方法、支部及び家族への連絡

- ・リーダーは家族等(本人以外)への緊急連絡先を事前に把握しておくこと。
- ・埼玉支部への連絡先をあらかじめ決め計画書に記載するとともに、下山時、緊急時には支部にも連絡する。緊急時の対応は、事故現場と支部とで適切に役割を分担する。

4. 登山コースの選定と参加者への情報提供

- ・登山コースを体力(歩行時間や距離)・技術(危険度、難易度)に応じて区分(例えば、☆、☆☆、☆☆☆、☆☆☆☆等)し、参加者に登山コースに関する情報提供を行うと共に、山行への参加条件とする場合もある。

5. 適切な登山装備の整備及び使用方法

- ・装備の適正使用(保守・整備を含む)、ハイキングレスキュー等に関する講習会を計画的に実施する(新入会員への情報提供・教育訓練を含む)。
- ・山行目的に適合した個人装備を計画書に記載する。
- ・支部装備としてトランシーバーを携帯する。

6. 個人及び共同装備

- ・個人装備:持病薬、救急絆創膏、救急包帯、三角巾、感染防止対策、非常食、カラビナ(2個)、スリング(60cmと120cm)、レスキューシートなど。
- ・共同装備:リーダーは共同装備の分担者を確認しておくこと。
ツェルト(全メンバーを収容可能なこと)、補助ロープ(6mm×20m)、医療用水(500ml×2本)、救急医薬品セット(一覧表を作成)等

7. 登山時のオーダー

- ・基本的に、リーダーは最後尾を歩き全メンバーの体調などの行動全般を確認する、サブリーダー(又はコースリーダー)は先頭を歩き、次に登山初心者、体調の良くない人、体力的に弱い人等のオーダーを登山開始時(行動中は体調を確認しながら修正)に決めておく。安全登山や事故時の対策として、パーティを分散させないこと。

8. 事故対応時の注意点

- ・レスキュー時の二次遭難事故(救助ヘリコプターに接近する場合など)には十分に注意する。

9. ヒヤリ・ハット事例の収集

- ・埼玉支部の山行で生じたヒヤリ・ハット事例を安全登山委員会で収集する。その結果を定期的に支部委員に提供し、安全登山対策として活用する。

(以上 事務局)

三支部合同登山に参加 堀川清

9月14日(土)～15日(日)に三支部(東京多摩・埼玉・山梨)合同登山が実施された。前回は埼玉が主催して雲取山で実施されたが、今回は東京多摩が主催して御岳山で実施された。御岳山は平安時代からの信仰の山である。江戸時代の「武蔵國多磨郡御嶽山道中記 御嶽菅笠」(天保5年)によると、江戸四谷から新宿・中野・荻久保・柳澤(現西東京市)・小川・箱根崎・新町(小作駅の北方)・青梅・日向和田・沢井・瀧本を通して御嶽に到着、神社にお参りして山上に一泊して、翌日は七代の瀧(ロックガーデンの下流にある)をお参りするのが一般的だったようである。因みに御嶽講の分布をみると明治期には全国3485講があって、そのうち、埼玉は1368講だった。ずば抜けた数である。

9月14日(土)午後に御岳山の山頂にある御師による宿「山楽荘」に集合した。私は、古里駅から丹三郎尾根を登って来た。ある書籍によれば、「丹」は秩父丹党(関東の武士団の一つ)を意味するという。山楽荘は日ノ出山に行く道の途中にある静かな宿であった。

割り振られた2階の部屋に入って休憩後、1階の神様が祀られた部屋に三支部が集まって、各支部代表の挨拶のあと、山楽荘主人による講話、東京多摩支部の金(こん)会員(元警視庁山岳救助隊;現在「岳人」に山岳遭難について連載中)による東京都での山岳遭難の状況に関する話があった。いずれも興味深い内容であった。

夕方から、講話があった部屋で宴会となった。宿のこだわりの食材(日ノ出山に行く途中に畑がある)での料理であった。山の話で盛り上がり、各支部からの持ち込みの酒が回って来て二次会を含めるとけっこうな量を飲んだ。平地ではまだ残暑が続いていたが御岳山の上では涼しく布団を被ってぐっすり寝ることができた。

翌日(15日)の朝は台風接近で御岳山の上では雨が強かった。大岳山に往復する予定であったが、残念ながら中止となった。次回の山梨での再会と好天での登山を期して下山した。私個人は小学校6年のときの遠足(そのときは鳩ノ巣に下りた)以来、御岳山は馴染の山で相当の回数行っているが、今回は御師の宿に泊ってよい思い出となった。



回峰行の山 ー都幾山・金岳・堂平山ー 松本敏夫

ときがわ町の都幾山慈光寺は白鳳二年(673)僧慈訓により山岳仏教寺院として草創され、役行者が修験の道場を開いたとされる関東天台を代表する古刹である。日本三大装飾経の一つに数えられる国宝の法華経一品経(慈光寺経)で知られ、鎌倉期には源頼朝や畠山重忠の信仰が篤く、全盛期には都幾山一帯に75坊の堂塔伽藍を数えたようである。修験の遺構として蔵王堂と蔵王権現立像を伝えてきたが、残念ながら昭和60年の火災により焼失している。栗原仲道著「武蔵野の修験道」(山岳宗教史研究叢書14巻五来重編 名著出版)には、「都幾山(金岳)・堂平山・笠山は“慈光三山”と称され、往時の回峰行の道筋であったと云われている。」と記載がある。「都幾川村の史跡と文化財」(都幾川村教育委員会)に、行徒は九十日間の回峰修行が行われたと記載がある。往時、金岳・七重・堂平山の稜線は修験者達の行場として賑わったものと推測されるが、最近では登山の対象から見放されたらしく「山と高原地図」奥武蔵・秩父(昭文社)には登山道の記載はない。

慈光寺入口である宿交差点手前の「ときがわトレッキングコース専用駐車場」に車を止めた。宿交差点から慈光寺参道の車道を登り始めて左側にある「女人堂」(「九丁目」の丁目石)を過ぎ、浄土院念仏堂跡・伝女人堂跡を経て、旧山門(仁王門)跡と伝えられる板石塔婆群に出る。ここには女人禁制を示す結界があり、女性は結界を避けて「女人道」と呼ばれる西側の尾根通りを登って慈光寺観音堂へと向かったと板碑群の説明板にある。



慈光寺入口バス停とトイレ



女人堂



板石塔婆群・旧山門跡

女人道は杉林の中にあり、石仏や慈光寺七井の1つである「星の井」(「二丁目」の丁目石)などが点在していた。慈光寺本坊前の多羅葉樹には「比叡山延暦寺第三代座主である慈覚大師円仁お手植えと伝えられる」と説明書があった。坂東三十三観音霊場第九番札所の急な階段を一気に登ると観音堂にでる。



慈光寺本坊



多羅葉樹



慈光寺・観音堂

都幾山への登山口は観音堂の左奥であるが、標識は無い。霊山院と都幾山との分岐を右折するとスギやヒノキの植林で予想外に明瞭な道であった。西に向かって真っ直ぐに高度を上げると、観音堂から十数分で樹林に覆われた都幾山山頂についた。新編武蔵風土記稿の比企郡平村 慈光山の条に「山上に與地峯遠一山など名を得し所あり、及び彼笠山の内なる見性山を合せて、慈光の三山と称すと云」と記載があり、都幾山(金岳)は遠一山、堂平山は見性山であろうか、確認できる資料がない。山頂から南西と北(ときがわ町と小川町の境)の二方向に登山道(踏み跡よりは遥かに明確)が確認できる。杉の立木に「都幾山・463m」と記載された真っ白いプレートが括り付けられていた。ここに三角点はない。



都幾山への登山道



都幾山山頂



冠岩への登山道

冠岩へは薄暗い尾根上の道を緩やかに下り、小さなピークを越えると右手すぐ下に林道が見下ろせる場所にでる。稜線が狭くなると登山道を挟んで南に座禅岩、北側に慈光寺七石の一つである冠岩につく。冠岩は基部から見上げると高さは数mほどか。休憩用の板張りの四角い台が設置されていて、南から「ときがわトレッキングコース」が合流する。



慈光寺七石・冠岩



座禅岩

冠岩の説明板には「冠“の名の由来は、僧侶たちが修行の際に頭に被っていた冠帽からきています。行徒が回峰の行を終え帰坊するとき、冠岩の前までくると法螺を吹き鳴らして帰山を告げた。そこで行徒ははじめて冠を解き、共に帰坊していった。」と記載がある。予想外に小さい岩であるが、伝説は行者の回峰行の様子を生き生きと伝えている。また、座禅岩には「栄朝禅師が座禅を組んだ場所である。栄朝禅師は比叡山に登り、宋国へも渡来して禅を学び名声を上げ、建久 8 年に慈光寺の塔頭として”霊山院“をこの地に創建した。」の説明が記載されていた。

金岳へは冠岩から西に連なる稜線を直登する。金岳の南側山腹を巻いて七重集落へと向かうトレッキングコースは左手下に徐々に離れて行く。冠岩までの登山道とは異なり金岳への道は明らかにヤブっぽくなり、登山者の少ないことが実証された。但し、スギやヒノキの植林帯の中につけられた踏み跡と町境界杭、ピンクやブルーのテープが木々の随所に付けられていて、危険な個所や迷う場所はない。冠岩から十数分の登りであっけなく金岳山頂についた。杉の木に括り付けられた「金岳」の手作りの木製標識と三等三角点、三角点・基本測量と記載のある白杭が目飛び込んできた。「平萱」と白地に黒字で記載のある朽ちた木片が三角点の傍に落ちていた。「増補ものがたり奥武蔵」(神山弘・新井良輔共著)には、「慈光寺の裏に金(かな)岳という峰がありますが、ここは昔鐘岳といって、慈光寺の鐘楼があったからだと言われている。この鐘は頼朝が納めたものと云われています。しかしこの鐘はあまりに大きすぎたために、使用できない“ならずの鐘”で、この附近を襲った大地震のため、山頂から転がり落ち、赤木ノ沢に沈んでしまいました。それから落ちた場所を鐘ガ淵と名付けたと云います。」と地名の伝説が紹介されている。新編武蔵風土記稿の比企郡平村 慈光寺の条に、「鐘嶽と云あり、是は當時右大将頼朝納められし鐘を掛けし所なりと云」と記載があり、鐘を寄進し武運を祈った源頼朝の信仰と隆盛を誇った慈光寺の輝かしい歴史を今に伝えている。



金岳への踏み跡(登山道)

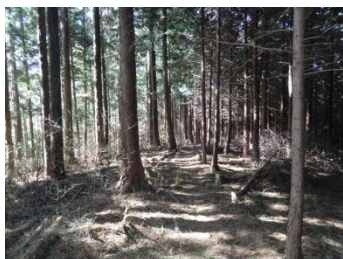


金岳山頂の標識



金岳の(平萱)三等三角点

樹木に囲まれた金岳山頂は都幾山頂と同様に眺望は全く無い。三角点周囲は平場となっていて、鐘楼が設置されたとしても納得できる広さである。ここから七重集落へ向かう南への道と真北に向かう二つの道がハッキリと確認できた。南に向かう稜線上の道は、途中、石灰岩の露出した場所を通過するが、最近はやりのパワースポットの表示は無い。尾根が広い場所でも、踏み跡とピンクのテープが木に巻かれていて迷う心配はない。右手に笠山の一部が木々の間から見え隠れしている。前方が明るくなると林道・赤木七重線にでた。林道を左(南方向)に進めば七重集落へ、右(北)に行けば赤木集落である。



七重への踏み跡(登山道)



赤木七重線の登山口



入口付近のヤブ道

町境界は向い側の尾根に在りそうだが林道斜面はブロックが積まれていて取り付けない。国土地理院の二万五千の地形図では右手(北方向)に進み、林道が北から南へ 180 度カーブする西側に登山道が記載されている。ここから稜線に取り付くため林道を右に進むとカーブミラーとガードレールの間に藪に覆われた廃道があった。慎重に灌木を分けながら数十メートル進むと徐々に藪が薄くなり道がハッキリとしてきた。尾根に上がると左手から踏み跡が合流し、ピンクのテープと境界杭とが出てきた。所々、ヤブっぽい場所にでるが、境界杭と踏み跡を丹念に辿ることで藪を避けることが可能である。視界は利かないが予想外に頻繁にピンクやブルーのテープが木々に巻かれていて、尾根を忠実に辿れば、ルート確認は比較的容易である。

林道からヤブや急登を乗り越えて約 30 分で傾斜が緩くなり、左手から「ときがわトレッキングコース」が合流した。「みんなで楽しむハイキングコース・笠山から慈光寺コース、赤木沢」の古いホウロウの大きな看板が打ち捨てられていた。この先は林道・栗山七重線で、屋根付きの七重峠休憩所とトレッキングコースの分岐があった。



七重峠休憩所への登山道



七重峠休憩所



休憩所から堂平山への入口

堂平山へは国土地理院の地形図に登山道の記載のある町境尾根を登る。登山口に標識は無いが、比較的傾斜の緩やかな林道右側の山腹から尾根に取り付き、稜線に上がるとピンクのテープと境界杭と共に踏み跡が西に向かって伸びていた。ヤブっぽさを残す尾根の急登で、足を踏ん張るのに予想外に体力を費やし、顔から汗が噴き出す。右手に笠山が見え隠れしている。傾斜が緩くなると踏み跡は明確な登山道に変わり、七重峠休憩所から約 40 分で堂平山直下南斜面の「ときがわトレッキングコース」に合流した。東側から天文台を回り込んで、一等三角点のある堂平山山頂についた。



堂平山への登山道



堂平山山頂



堂平山の一等三角点

堂平山頂から都幾山や金岳は確認できなかったが、弓立山をはじめ城峰山、両神山、大霧山、登谷山、

笠山などの秩父の山々、浅間山やその手前に東西御荷鉾山等が眺められた。堂平山は慈光寺の奥の院のあったところと云われているが、堂平の山名は明治以降に名づけられたようである。往時の奥の院からの眺めが偲ばれる。

堂平山から笠山との鞍部である七重峠に下る。七重へ林道をショートカットできる道が国土地理院の地形図にあるため、七重峠の分岐を右に入った。入口に「みんなで楽しむハイキングコース・笠山から慈光寺コース、堂平登山口」と記載されたホウロウの看板が捨てられていて先行き不安な予感を抱かせた。現在、この道を歩く登山者は無いのか、灌木に覆われて廃道同様の状況になっていた。灌木を払いのけながら堂平山の裾を巻く様に進むと徐々に藪が薄くなり、踏み跡が明確なものに変わってきた。小さな沢を渡り、急な斜面を下ると、予定通りに栗山七重線に飛び出した。分岐に標識は無いが黄色いテープが笹につけられているので、林道から七重峠への山道に入る場合は要注意である。



七重峠の分岐



七重峠から沢を渡る



栗山七重線の出口

林道を約20分歩いて七重峠休憩所に戻った。トレッキングコースで栗山七重線をショートカットできたが、地形図に記載の七重集落に直接下る登山道は確認できなかった。

林道・栗山七重線を東に進み七重の三叉路を左(赤木七重線)に進むと、上方に屋根付きの「ときがわトレッキングコース・七重休憩所」があった。その下部に石仏が2体(如意輪観音と寛政元年銘のある地藏尊)、樹木の中に埋もれていて、歴史を重ねた分岐であることを思い起こさせる。



七重集落の石仏



七重休憩所



七重集落

林道・赤木七重線が東から北に急カーブする場所が霊山院への林道分岐である。ここは道なりに左に進むとすぐ先に「ときがわトレッキングコース」の分岐・標識があり、右折して石段を登り山道に入ると、金岳の南側を巻く昔ながらの良く歩かれた登山道であった。途中、馬頭観音の板碑が木に食い込むように立てかけられていて、旧道であることを改めて気付かされた。暫くトレッキングコースの快適な道を進むと冠岩・座禅岩についた。



冠岩への分岐



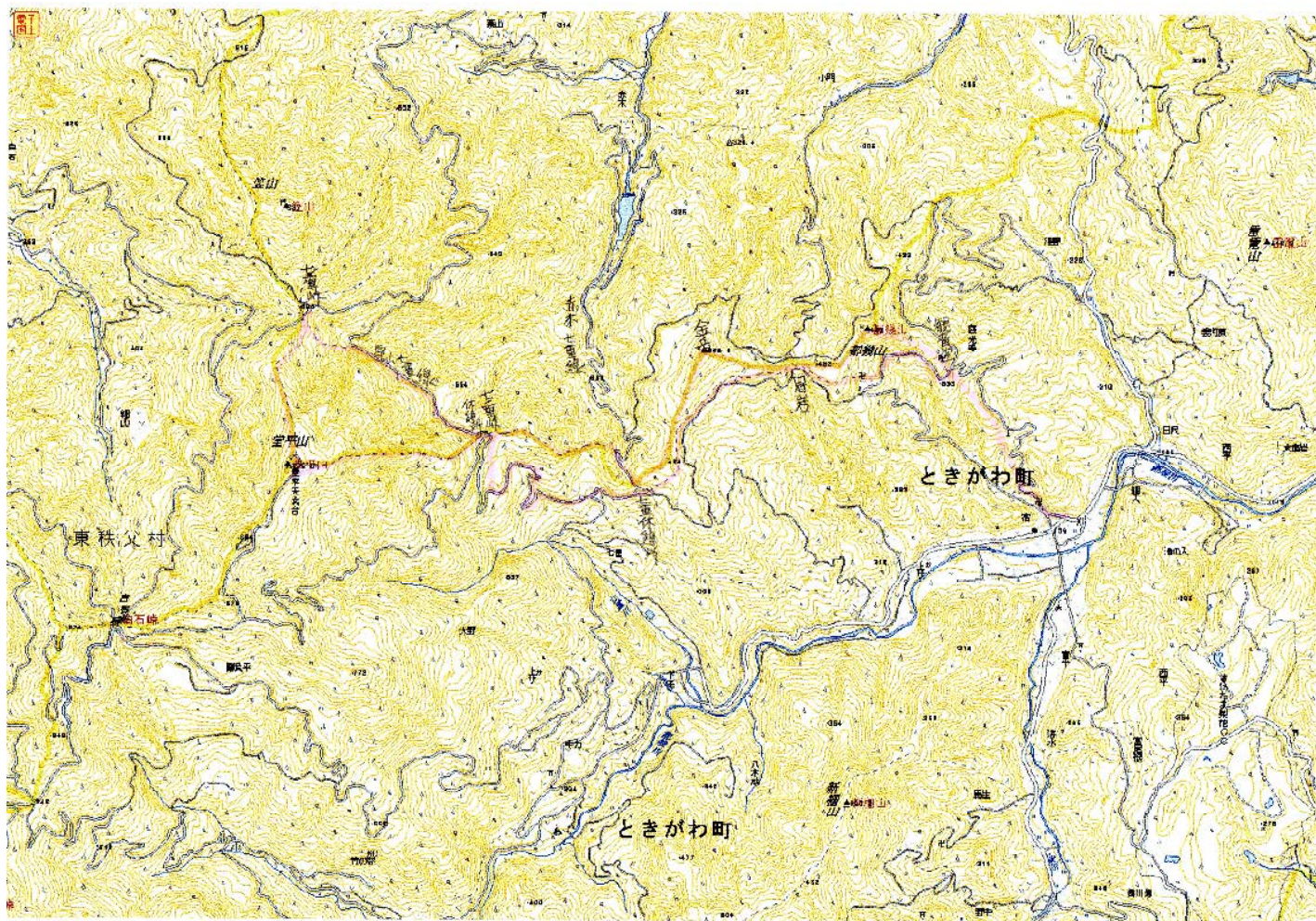
馬頭観音



霊山院

霊山院へは稜線上にある冠岩からトレッキングコースを南へ下る。急な木製の階段を下ると林道に出て、歩きやすい道が霊山院へと続いていた。桜が咲き始めたばかりの霊山院の庭を眺め、慈光寺の観音堂前に戻る。今朝、登ってきたスギ林の女人道を下って、駐車場に帰った。

平成25年3月22日(金曜日)



国土地理院 二万五千分の一地形図

コース記録:

慈光寺入口・ときがわトレッキング専用駐車場(7:40)～慈光寺(8:14)～観音堂登山口(8:20)～都幾山・霊山院分岐(8:21)～都幾山頂(8:31)～冠岩(8:53)～金岳山頂(9:15)～林道赤木七重線(9:52)～七重休憩所(栗山七重線)(10:26)～堂平山頂(11:17)～七重峠(萩平笠山線)(11:57)～七重峠休憩所(12:22)～七重(12:49)～冠岩(13:20)～霊山院(13:40)～慈光寺(13:53)～ときがわトレッキングコース専用駐車場(14:20)

第8回安全登山講演会「山岳気象の基礎と気象遭難」

●日時:平成25年10月13日(日)13:30～17:00

●場所:埼玉会館 3C会議室

●講師:猪熊 隆之 氏

(株式会社ヤマテン代表取締役・気象予報士)



●内容

実例を交えて次のような内容を分かりやすく説明されて、理解しやすかった。以下は、説明された内容を事務局でまとめたものである。

○気象遭難が起こる山、気圧配置は決まっている

- ・歩く間隔が長い、森林限界より上か
- ・どちらから風が吹いているか
- ・どちらに海があるか
- ・目的の山と海の間にもっと高い山があるか

○山岳気象の基礎

- ・天気は崩れるのは雲ができるから
- ・冷たい空気が入ってくる、または水蒸気が含まれる空気が上昇して冷たくなると雲ができる

○天気図と地図を調べる

- ・山のどちらから風が吹いて来るのか(天気図)
- ・山のどちら側に海があるか、目的の山と海の間にもっと高い山があるか(地図)

○天気予報・天気図の利用

- ・風上側の地方の天気予報を利用
- ・例えば白馬岳で西寄りの風ならば富山県東部の予報

○風・雲

- ・風は気圧が高い方から低い方へ吹く(実際は地球の自転のため風向は直角右向きに変えられる)
- ・等圧線が込んでいるところが強く吹く
- ・大気が不安定(上層と下層の温度差が大きい)

だと雲が発達(高い所まで雲が発達)

- ・風は高い山ほど、北日本や日本海側の山ほど冬季に強く、夏季に弱い傾向
- ・レンズ状の雲は上空で風が強い証拠

○過去の気象遭難

- ・春山・秋山の気象遭難(死亡事故)は圧倒的に低体温症が多い
- ・低体温症になる気象条件
 - － 強風(特に平均風速が15m/秒以上)
 - － 濡れ(降雨・降雪)
 - － 低温(特に気温の急激な低下)
- 温帯低気圧が発達しながら通過した後の日本海側、脊梁山脈
- 特に温帯低気圧が関東沖から三陸沿岸に進行する気圧配置は要警戒

○予想天気図から荒天を予想

- ・台風が低気圧に変わった後、さらに発達
- ・低気圧の通過コースが日本列島に接近して三陸沖を北上
- ・低気圧の通過後、等圧線が縦縞で等圧線の間隔が込んでいる
- ・温帯低気圧が北寄りに進行すると荒天が続く

○週間天気予報から荒天を予想

- ・日本海側、太平洋側で雨や雪で、その翌日は日本海側で雨または雪、太平洋側で晴れ、しかも日本海側で温度低下するような場合は、日本海側や脊梁山脈の山では大荒れ

○落雷への注意

- ・大気が不安定
- ・上空に寒気を伴った低気圧の接近
- ・太平洋高気圧の勢力が後退



(安全登山委員会)

50山ラリー実施状況

7月の山行(二子山)で事故があり、8月の奥秩父(甲武信岳他)、9月の三国山は延期になり、10月の山行から再開しました。まだ奥秩父の山々を残しておりますが、今後は第9号で示した100山候補を元に実施して行く予定と聞いております。

次回50山は、忘年山行のときになります。

●2013.10.6 No.17 矢岳 (1357.9m)

秩父鉄道武州日野駅→(車)→林道一般車終点→営林小屋→林道終点(案内標あり)→(沢沿いの登山道・苔の緑が鮮やか)→沢源頭(ここで赤テープの判断間違い?)→(踏み跡が微かな道の急登後、きちんとした踏み跡の道に出る)→頂上がある尾根の峠→(ピークをいくつか越す)→矢岳(三角点あり)→峠→(きちんとした踏み跡の道)→沢源頭→林道終点→営林小屋→林道一般車終点→(車)→武州日野駅



林道終点の指導標
(指導標は峠にもあったが、沢源頭にはなかった)



矢岳山頂の記念撮影(第1班)
(神田道雄会員に撮って戴きました。ありがとうございます。)

陸地測量部主催の支部員による講演会

第三回「その時、私は！」

講演内容: 日本登山史上初の冬山遭難

北ア・松尾峠の遭難をめぐって

講演者: 五十嶋一晃さん(No.5092) (所沢市在住)

期日: 平成26年3月6日(木)

午後6時半から午後8時半まで

場所: 浦和コミュニティセンター

(JR浦和駅東口駅前・パルコ10階)

会費: 200円

募集: 40名(申し込み制)

(申し込み先: TEL.090-3310-9992 遠山まで)

(メール: mt3@nifty.com)

日本登山史上初の冬山遭難として著明な松尾峠の遭難についての貴重な講演です。五十嶋氏は富山県出身、法政大学山岳部OB、立山、剣岳、薬師岳方面の研究著書多数。講演後に著書の紹介もあります。埼玉支部設立準備第一回会合に出席。

(陸地測量部 遠山)

埼玉支部行事案内

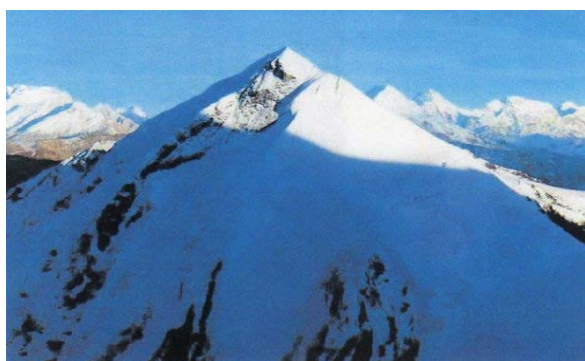
12月から4月まで

月	行事	備考
12	14-15日 忘年山行 (泊:立正大熊谷キャンパス) ・1日目:大宮駅前出発(バス) 琴平丘陵(来年度支部懇談会でのコースの一つ) 宿泊所で講演会・懇親会 ・2日目:御荷鉾山 帰路、大久保山立ち寄り 熊谷・川越・大宮に停車	バスは他にも 停車予定
1	4日 新年支部懇談会 ・荒幡富士に行ったのち、所沢市内で懇談会の予定 15日 自然保護シンポジウム ・題目:埼玉の自然を知ろう 武甲山の希少植物 埼玉県のカバ被害 大高取山の地質と動植物 森づくり活動 ・会場:浦和パルコ10階 25日 安全登山講演会 ・題目:埼玉県山岳救助隊による事例報告 ・講師:県警山岳救助隊 飯田副隊長 ・会場:埼玉会館 3C 会議室 ・時間:13時30分より 未定 森づくり(枝打ち)	東吾野
2	23日 安全登山講習会 (心肺・AED)	

	・講師:日本赤十字社救急法 指導員 渡邊浩 ・会場:大宮川鍋ビル8階 ・時間:13時より 8, 9日 四季の山;スノーハイク ・同時に日光白根山でネパール・ ヒマラヤ第3回訓練(耐寒)	奥日光(光徳 小屋)
3	6日「その時、私は!」 未定 100山(大高取山)	
4	6日 ふれあい登山 12日 支部総会 13日 支部総会記念山行 (場所未定) 19日 ヒマラヤ登頂とトレッキング ツアー Aコース・Bコース 出発 26日 トレッキングツアーCコース 出発	

(注)最終的な日時・場所などは今後の支部報やホームページ、メールを参照下さい。

埼玉支部創立5周年記念海外山行について



チュルー最東峰

埼玉支部では、支部創立5周年を記念してネパール・ヒマラヤの6000m級峰登頂とトレッキングのツアーを企画しました。ツアー説明会を10月18日におこないました。支部会員の状況を考慮して無理のない計画としました。是非、ご参加をご検討下さい。

申し込みの締め切りは2013年12月20日です。

1. ツアーコース

●Aコース チュルー最東峰(6038m)登頂とアンナプルナ山群一周トレッキング

期間:2014年4月19日～5月11日(23日間)

費用:58万円(予定価格)

●Bコース エベレスト街道トレッキングとアンナプルナ内院トレッキング

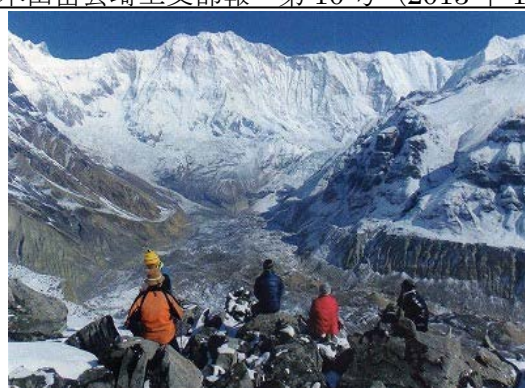
期間:2014年4月19日～5月11日(23日間)

費用:59.8万円(予定価格)

●Cコース アンナプルナ内院トレッキング

期間:2014年4月26日～5月11日(16日間)

費用:43.6万円(予定価格)



アンナプルナI峰8091mを仰ぐ

2. 注意事項

- ・行程詳細等は支部のホームページを参照、または集会山行委員会にご請求下さい。
- ・予定価格は参加人数やその他の条件で変わり得ます。
- ・Aコースに参加される方は、トレーニング山行にご参加ください。また個人装備もチェックします。ただし、テント・寝袋・登山用共同装備は旅行社で用意します。保険加入・健康診断が必要です。
- ・Aコースには高所クライミングシェルパとそのスタッフが同行します。B・Cコースには日本からツアーリーダーが同行します。
- ・本ツアーは埼玉支部が企画し、旅行手配はアルパインツアーサービス株式会社(第1種登録)に委託しています。

3. ツアー実施までの予定

- ・ツアー説明会 2013-10-18 19:00～ (実施済み)
- ・Aコース参加者への雪山訓練机上講習
2013-11-05 19:00～ (実施済み)
- ・ツアー申し込み締め切り 2013-12-20
- ・Aコース参加者への雪山現場訓練 2013-11-23～24
富士山吉田口5号目～7号目の付近
- ・Aコース参加者への雪山現場訓練 2014-2-8～9
日光白根山

4. ホームページ開設

埼玉支部ホームページにツアー専用ページを設ける予定です。当面は「行事案内」のページに資料を掲載しております。

(ツアー隊長 古川 / 集会山行委員会 高橋)

平成26年度全国支部懇談会の骨子決まる

- 主催 公益社団法人日本山岳会埼玉支部
- 期日 平成26年10月18日(土)～10月19日(日)
- 宿泊 ナチュラルファームシティ農園ホテル(秩父市)
- 参加資格 日本山岳会会員(会友を含む)及び関係者
(見込み人数 約200名)
- 参加費 20,000円(含;夕食・交流会費、朝食、弁当)
- 内容

日時	事業	概要
18日 12:00	受付開始	含;荷物預かり
14:15	開始式	オリエンテーション
14:30	講演会 (2題)	山岳救助隊 秩父まるごとジオパーク

			ク推進協議会
	16:30	自由時間	チェックイン・入浴等
	18:00	交流会	各支部紹介など
	12:00～	展示会	埼玉支部の紹介
19日	5:30	荷物受付開始	登山で不要な荷物は西武秩父駅に搬送
	6:00	登山(1)	両神山(白井差口) マイクロバス2台
	9:00	登山(2)	琴平丘陵(ホテルから影森駅まで)
	14:00～16:00	解散	西武秩父駅 両神山コースは16時頃

- ・琴平丘陵コースは忘年山行の1日目に歩いてみる予定です。
- ・支部会員の皆様のご参加(スタッフ)をお願い致します。

埼玉支部の委員会状況

各委員会からの情報です。支部委員会での情報をもとに、支部報前号発行以降の状況を広報委員会で編集。

●総務委員会

[支部総会]

- ・1月4日に新年懇談会を実施予定。
50山「荒幡富士」とセットにする予定
- ・会員数(11月11日現在)
支部会員 130 名、支部会友8名。

[全国支部懇談会]

- ・来年10月の全国支部懇談会次第をまとめた。
- [三支部合同懇親山行]
- ・9/14-15 に実施した。なお2日目は大岳山に登る予定だったが台風の影響で中止。

●広報委員会

[支部報]

- ・支部報第10号編集。
- ・今後は支部報に山行予定を詳しく載せたい。

●山行・集会委員会

[50 山山行]

- ・7月の事故で8月・9月は中止し、10月から再開。
- ・埼玉100山の選定のための委員会は延期。

[海外登山]

- ・来年度にネパールでの登山、トレッキングを募集中。
- ・登山のための訓練(机上、富士山、奥日光)。

[四季の山]

- ・11月9、10日に「秋の山;八海山」を実施。2日目は新潟方面悪天だったため赤城山黒松山に変更。
- ・「冬の山;奥日光」は2月8、9日に実施予定。

[忘年山行]

- ・12月14、15日に予定。

●自然保護委員会

[森づくり]

- ・7月に越生で下草刈りを実施。
- ・10月に緑の森博物館で下草刈りを実施。
- ・東吾野での枝打ちは日程・内容・作業場所を調整中。

[自然観察会]

- ・11月17日に大高取山で実施。

[自然保護シンポジウム]

- ・1月15日に浦和パルコ10階で実施予定

●安全登山委員会

[講演会・講習会]

- ・第8回安全登山講演会「山岳気象」(10月に実施)
- ・第9回安全登山講演会「埼玉県山岳救助隊による事例報告」(1月25日に実施予定)
- ・「心肺蘇生及び AED 使用法」(2月23日に実施予定)

[その他]

- ・7月の事故に対して安全対策まとめ
- ・今後はヒヤリハット事例を収集

●社会貢献委員会

[行事開催]

- ・来年度のふれあい登山のコース・実施日を検討中。

埼玉支部の同好会状況

●陸地測量部

- ・「陸測部報」第4号を発行。
- ・自然保護委員会の自然観察会を共同主催。
- ・三峯山参道丁目石調査予定

埼玉支部の会員異動(2013年10月末日現在)

入会: 安瀬善一 14765、奥田通孝 15343、坂口

退会: なし

埼玉支部の会友異動(2013年10月末日現在)

入会:

退会: なし

編集後記

慣れない編集をはじめて、もう10号となりました。今もって遅れや間違いが多くて申し訳ありません。本号は頁数が多くなったので記事を前篇・後篇に分けようと思いましたがそのまま掲載しました。(堀川)

公益社団法人日本山岳会 埼玉支部報 第10号

2013年(平成25年) 11月 日発行

公益社団法人日本山岳会埼玉支部

発行者: 大久保春美 編集者: 堀川清

事務局: 〒365-0053 鴻巣市緑町 5-16 富樫方

HP: <http://www.jac.or.jp/info/shibudayori/saitama/index.html>

Eメール: stminfo@jac.or.jp